新刊紹介

過去約2年間に発行された書籍の中から時事的で話題性があり内容豊かなものを会員のご要望に応えながら編集委員会が選択して紹介いたします。

『IAS第37号改訂プロジェクトの軌跡 2005年草案から2010年作業草案まで』（滋賀大学経済学部研究叢書第50号）

赤塚尚之 著｜滋賀大学経済学部 2017、355pp.

僭越ながら、拙著を紹介することとしたい。

著者（赤塚）は、情報技術の発展に伴う会計の基準研究を取り巻く環境の変化をふまえ、速報性に留意しつつ、質的・量的水準を徹底的に引き上げ、追体験可能性が担保された2次的資料を研究成果として公表することが、存続可能な基準研究の一形態となりうるのではないかと考えている。

かかる問題意識に基づき、本書は、国際会計基準審議会によるIAS第37号「引当金、偶発負債、および偶発資産」の改訂プロジェクトのなかでも、2005年6月の公開草案公表から2010年2月の作業草案公表に至る検討を、論点別に網羅的に整理している。現状、類似した刊行物はなく、学内研究叢書とはいえ、本書が将来における研究・教育活動において活用されることを期待している。

また、本書をつうじて、他の基準研究者が著者と同様の問題意識を共有するに至り、金融商品、保険契約、リース、収益認識等に関する難解な基準設定プロセスが適時に整理されることも期待している（著者の能力を超える所業である）。

最後に、「若手」と称される時期において研究叢書を2冊刊行できたことについて、本学関係各位のご配慮に感謝申し上げる。

評／『彦根論叢』編集委員／赤塚尚之

『みんなが欲しかった簿記の教科書 日商3級商業簿記（第5版）』

滝澤ななみ 著｜TAC出版 2017、298pp.

本書は、経済学部2017年度入学生向けのコア科目「簿記会計」の教科書である。半ば筆者（赤塚）の独断で本書を教科書に指定するに至った経緯があり、かつ、専門学校の出版物を使用することに抵抗感・違和感を覚える教員も多いであろうことから、この場を拝借して本書を紹介することとしたい。

教科書は、学生にとっての親しみやすさに加えて、相応の学力水準への到達可能性を備える必要がある。本書は、これらの要件に関して、①限られた時間内で日商簿記3級の論点を概ねカバーできること、②対応する問題集・DVD教材が市販されていること、③フルカラー印刷であること、④反復練習に資する解答用紙を個別にダウンロードできるという特徴を有する。さらには、⑤本書のシリーズを使用することにより、日商簿記2級・1級の学習との連続性・合格可能性も担保されている。ちなみに、2017年度の原価計算論Ⅰ・Ⅱは、本書のシリーズである2級工業簿記を教科書として使用している。

もっとも、電卓の使用方法、解答テクニック（下書用紙の書き方）、問題集で初出となる論点等、独学で本書を使用すると理解に時間を要する可能性もある。もちろん、これらは、いずれも、教員が授業中に適宜補えば足りる。

「会計離れ」が指摘されるなか、本書が、単位を取得し、さらには上位資格に挑戦していく興味関心を形成する一助となることを願うばかりである。

評／『彦根論叢』編集委員／赤塚尚之